

とうせいとうき 統制陶器

かま 釜

調査：唐古・鍵遺跡 第102次調査

出土年：2006年

大きさ：高さ19cm、最大幅28.5cm

時代：昭和20年頃

太平洋戦争時には、物資の不足から、武器製造のために家庭の金属製品を供出させました。このため、炊飯に使う釜などの日常雑器をはじめ、武器・貨幣なども陶器でつくられたといえます。

展示品は戦時中につくられたとみられる陶器の釜です。戦時中は工業生産が国の管理下におかれ、各製造業者には製造番号が割り与えられました。この陶器には「瀬919」の記号があり、愛知県瀬戸市の窯業者に振られた番号とみられます。このような陶器を「統制陶器」といいます。

なお、この釜は、戦争末期に「赤とんぼ」と呼ばれた海軍の複葉練習機が隠されていた鍵八阪神社の北東隅での発掘調査で見つかったものです。

唐古・鍵遺跡の東側、天理市柳本周辺には海軍の飛行場が建設され、これを守るための高角砲台座が唐古池にも残ります。弥生時代の遺跡として有名な唐古・鍵遺跡ですが、第2次世界大戦の「戦争遺跡」としても重要なのです。



国土地理院所蔵 S28年 米軍撮影航空写真から作成

